時間間に百八十度頭を切り

て見ても時代の央職を行き各革命、に踰滅し得ざる重大問題である。 の本顔をなす問題が、喰ふか喰は、盲日西歐に於いて宗教と政治の影

関いと威廉の高に関ルだ寺巡グ
別は未だにその興 の歌され、なほそのうへ殷陽のお酒、煙草を飲き で思からしむるのである』と〇〇兵隊長閣下から

> 製する響きが羅々と留のやうな音を立てゝゐる 酸の飛行機は頭上を燃管高く飛び廻りエンヂンの はりが無気味にジャングル地帯を流れ数砲頭の作

肉親へ最後の便り

の身間に売くくくする盛しさがこみ上げて來る、の身間に売して感謝した「素門の既、身の名譽」の財

費官らの行動によって南太平洋全米軍の心路

凡ゆる分野に取って決河破竹の勢、難し思ひ半はに過ぎるものがあら、たか、その血みどろの歴史を願み

う。以下之等の人々の抱く根本理。る時恩者が如何なる頭腦にも聞せ、厭職を質に把握する者であるなら、せ言智慧ある者は智慧を出せ与力、れ教育動語に、「且護慧あれば疑り

すべき比粉があり、此の慇懃の寅 は文那民衆に「金ある者は金を出 かに極法に 兵役の

の概なる國家の理想を八弦に光微しむるならは生命である。蔣介石出來ない現状ではないか。これ明より高度に修練されねばならぬ。

能跡を宜せら 諸君は自己専門の感覚の實務に拠

出征して多くの部下を指揮して武

らうが、私をして顧明率直に言はを挑して徴兵を仰かずして威争は

を見持したいと言う観察は音等も
て理想世界を建設すべく職意を更、音等の出し得るもので一番大切なある。一旦総談とは今を指いて何、力戦の最尖能に立たねばならぬ事。既的に武力戦を見持したいと言う観察は音等も
て理想世界を建設すべく職意を更、音等の出し得るもので一番大切なある。一旦総談とは今を指いて何、力戦の最尖能に立たねばならぬ事。既的に武力戦

此の悪威が完勝に一途透進しある者は力を出せ』と要求したが、身公に率ずると仰せられた所以で

「「「「「「「「「」」」」を関して生命を出すことを値む時れば男も女も子供も珍人も図家切して何の墓間の類立る。 「「「」」を出すことが最も影響的である。行せずしていつあるか、必要とあして所続すべきである。 若し愚者が智 日あるか、影響点に築すとは今實

一般部門に於ける構理如何は國家ののであって、依然武力敵の失敗が常職は何等領針から一歩も出てあ

無ねるが、路君の推察に任せる。

い事實で、ロシャ又然りである。人が戦場に出て大部の國民はその生

うざるものであるが るに今次戦争について一帆をとる

ならばソ殿は人口一億七千萬の中 然には銜殿するとにする。今日こ

解が出來ると思ふが、軍機上から

じ思想戦の再次戦を受て敗北した。 選革を來たしつゝあるのに一

敗れこの間隙に元も依る。歌争の形態は一歌毎に大

して晋國の徹長令に依る批丁の要

の問題も於この対抗の種に匿念の11に触れて私の所優の一端ず、兵げられず、触弦感間の弱立は、

られてゐを未解決の諸問題が、

人東盟開放と共に從來運旋影燈 れるかの死闘を續げながら如何な

道に依つて如何に資理の探求が迫

同一説すべきではない。吾等は此

酸國家や共產民主社會主張國家と 一番大切であるか、色々理想はあ 西歐の自由主議國家すら傭兵制度

は、関で必須な軍事教験は平紫に比し、近世、別に研究すべきであるが、前時實一、世別に研究すべきであるが、前時實一

一次歐洲戦における版因の主因はを緊弾せしめるため一時顕遠の第

震うべき音楽華人も加其の責任のれてある我國も北はアリューシャがないからであって必等はどを整っても獨言ではない。比較的根本

由ン、南ソロモン、瀬洲支那大陸、

配置するには如何に真大の兵力を

ルマに至る大東亞國内に兵力を

ずるも、事質関係の敗れたのは談

來世界から日本が軍國主戦特國と

たりの一般帝國主義國家の資本主、一にするものである。人間は何が、衛は國民一人人々の戦務である。

を輝く者があるとするならば、彼 勿論とれば事實でなく献土が如何 在である限り、その

を知らないで研究に燃中したとい れ、國家が最高全位を知らないで研究に燃中したとい れ、國家が最高全位

野都さるべきや(脳弾を兜らる)素の紅年に依って書
の最に対する抗酸) 等の生命味道自由版 一丁

長岡博士が日臨殿争のあること 利生活等を保護せら

配野は兵隊はかりでは出來ない

製夫が食糧なくして配は出來な一個に皆つては姚姚を執って全部立ではない。

式力戦は商力戦の第一競的のも

か?銃か?

り様相と出格を解

微、國家觀、既託戲がといる風者の資勲なる研究態度、保せらるく時に於い

の野國正題を除せず、國家民族存

て、時、獣皮であるべきを管フたものでは、谷口

と自偽する部態依然たる徒盛であ 求け

は思幼の協風に吹きまくられた大。その存在を許容すべきでない。況。公申上げた方が忠節なりと、

期間の研究を持續すべきであつて 我々が日本人である以上は一日も

踏選の官ひ分だ、これは町ち乃木

大將は、殉死するより生きて御翆 取止めることを許されるなら暮ん か。慰徒のみが弱り歌争の圏外に

離が第一級に取つて血を流し生命

あの でごに機ずるであらう。新くして 在つてその特極を振り廻す秋であ をする。これは要するに総力威の

き寅貨を室曲して三百代言式議論める現實に於いてをやである。

起する原因は現代版に対する認識

んや金融無戦、世界無比の登録な一時代一

流れを汲む者である。第一の問題

し、後れの頭脳をもつて進歩的なり

陸軍伍長

濹 隊

挺 長陸原少尉

身

陸軍上等兵

古 髙

百田田正

一帮 (1) (1)

(愛知曆八名鄉石後村大字三輪) (岐阜曆加茂郡八百津町)

わが除から低身際を出したといふことは際の名誉と世話をやいてゐた「寺織少尉しつかり職むで、

会が、 船車は県然大規模な攻略に出で権 ので、 網車で現在までに 収取単四十八台 たっ を確破した

## 中澤挺身隊と呼應 時同じく揚る二大火柱 地爆破

任務を完了したもので隊長以下五隊員は次の通りである「年家電話」南太平洋に挺身するわが精鋭の鬼神をも哭かしめる活躍はしば~~ 銃に伸へられて深た、寺澤挺身隊はさきに報ぜられた中澤挺身隊と呼應して征途につき 相前後してられて深た、寺澤挺身隊はさきに報ぜられた中澤挺身隊の敵陣地爆破の壯烈な戦闘模様が傳へられて深た、寺澤挺身隊は一番の大学に挺身するわが精鋭の鬼神をも哭かしめる活躍はしば~~ 銃後に傳へ

加票等 



京賞= (右上から) 寺郊孔一の泉、加藤京一伍長、高橋三 (右上から) 古田正也 | 「京賞」 (右上から) 古田正也 | 「京賞」 (右上から) 寺郊孔一

ば廿六年夢のやうな人生であつた。

限へた、やがて医身際五人を中心に自食が始ま

肩を叩いた「院長殿御安心下さい、寺郷の命の

る、成功を配るで、大砂はうれしさうに少い

た、兵隊をちの買心こめたガ島料理である、御飯を

て五人の成功を一般 るため 水のやうなお粥をする みるたびに五人の眼頭が吹くなる、除全員が集つ

しい、既友愛、その歌友愛のためにも是が非でも成

兄姉の顔、脳裏のなかに消えては現はれ、 叱りつけてゐるやうだ「最後の別れだ、 しはまた消える『めゝしいで孔一』心のどこかで

「無快な仕事ですね、が計解」関にあた木下上等が終着時を十分に發揮します」四族正長はいつたで配着します。四族正長はいつた といって感聴隊長は一同の決死の謎を見廻した

今や末ツ子は强し

降にはすでに 擦茶品は 感情され 寒暖室である 愚異だ、 計数を繰ってゐるかも知れない 『寺郷の島 異だ、 計数を繰ってゐるかも知れない 『寺郷の島 朗々吟ず兵見の歌

**着を歌ひます』古田上等兵は立ち上ると一門指手〉、た、御婚職雨の中のこの壯雄、歌歌も一時鳥をした美うた、「鳳凰宗兵殿、自分は寺郷既身際の第二 天にもとざけと高徳を叩び氏身際の近途を設配した。** を取替へとはる」と高概兵長はちょうと首を傾け、 うにからくと笑った『五尺の小獅と歌の十 兵は顔を寺室少尉の方に向けていざとなれば爆撃 とともに敵の堡壁へ飛び込みます」とさも容気さ



つめたやうに思はれた 『寺滅西身際、萬歳』郷藤除長の首頭で一同は

呼きつける、制の道は一歩も進めない、今夜は雨の暗である、雨は闇のやうにとゞろいて概なぎに は少財を先頭にジャングル地構へ飛び込んだ。 「十五日家でに決行だだ」「しつかりやれ」と雨 の中、第一展図點で中郷世身隊と別れた寺郷世身 警ふ十五日 能は戦争をしてゐるのだといふ気になったが、間近に銃踏を聞き頭中電燈の光をみて初めて

の決行

の中で野宿だ、少尉は大木の根元を見つけてそこ 色に光らせてゐる。次第に近づい 聞えて來た、『敵の斥候か知ら』少尉はいぶかし けに思はれた、發砲をしたり、 メーンまた配つた、近い像中電影の光は雨を娘 酷し合つたりすれば斥候の位置も人数もはつ 使中電燈をつけた

方を照して 進んでゐる、將校一人と 兵隊三人ら と坦霊を仕掛けてあります。けふは朝からしよば て右手に砲が三門左に聯合が二つあり前に鐵係間 直に敵戦地偏縁に派遣した。みんな判ったか、向っ その附近の狀況を偵察して來い、 る、しかしみんな限切ってある。今のうちだが計

爾獎是勝恥,客溫不雕麼,好以實力加須爾斯思。十八治文健見証,北客飛來何以關,來至肝袖至說,麼間秋小臟可顯,人類斯上

はいはねど心の中は相通じてあるのである。 の國花機花のことくはつと散る、最後は肉頭、 んでかくつてゐるのだ。「靖國の社で食はう」口に 朗々と吟ずる兵鬼の歌、既身際はすでに敗を吞 挺身隊の意気天を衝く「よい部下を

この部下がをれば成功疑いなしとい

眼前にあ

0

面目に説明して五人を笑はせた『敵の作職要統令 を切り招言ながら目的地へ進んだ、ジャングル内 伝傷んだ、敵の道路を避け遂石を瀕りに道なき道 間の中で 爆笑が起つた、夜が明けるに從つて雨。

つたのである XX 鉄條網 配 整 例

ろかされて十日の八時頃漸くトラ暉地の見える草

合へ汗が背筋を流れる、五人は爆撃、導火線、マツ 言れがむかくと四邊をつくみ、 心と不眠不休の疲れた身個は太陽を浴びて慌にた

崎 豊著

身近のう發明を生みた話

なるな想 斑点腹邊軍治

日常町町の歴史と記された。★東郷元帥と日本海々戦──皮瀬彦太・本海軍記念日を迎へて・醴鮮平田大佐

l D

理細裏回り

の紅頭の若者 の紅頭の若者

正史 (

第一人は順本市製作町(一六五八) 着山 密線に、へカキに「橋 金)を映画してお出してお出 で書いた「番家方」の影響器を 直に整備室車打ます。 癌の病に / 癌要方/を を 
を 
からの水を飲み合うた、少計は 
を 
の水を飲み合うた、少計は 
の水を飲み合うた。 
の水を飲み合うた、少計は 
の水を飲み合うた。 
の水を飲みをいまれば、 
の水を飲みをいまれば、 
の水を飲みをいまれば、 
の水をいまれば、 
の水をいまれば、 と一同を代表して部隊長に到し

吹を脱せず、自ら厳重の雰囲気に酸論が張出するのは身近に戦の息 **モ國家皆兵の真意器に破すべきで** ンドンにあつたらとしたら、髪し 銃砲火が毎日落下するモスコーロ ある。今に於て斯の如き低額なる 類又は体が悪がフシギー病 人出來後惠 淺

米國式斥候に爆笑

の進歴は困難だ、遠々として進まない。

江ンディン

誤者

新

刊

位置を敬へ、進む方向を敬へて全滅を待つてゐる、 式下院といふ、その下院は相手方の版記を探るのが、と古田上等兵は聞いた『あればルーズベルトか』と古田上等兵は聞いた『あればルーズベルト でなく自分の身を融る圧候なのだ、そして自分の パーシ、また後確した『馬鹿野郎ツ』高橋元長 ( ) 浜へは こめりや何んだ、 斤候か、 巡査

進んだのである。その間改回となく敵の丘陽空見方を懲戒しながら大自然と斃び道路なつくいつつ

出すべし、進む時は發砲し、苦しも不幸にして怪我をでも突入すれば機械兵器を

部下を誘導して來た『これは有機い、ルースペーはつ言り見敬めをつけた少尉は、小川のほとりに ゆくと小川のほとりに発音を張つためとがあり、 ト治與心』と職語をあけて牛肉を食ひ、 つも繋がつてゐた、敵は撤退して一人もゐないと 「をかしい」注意深い少別はなほら開査を進めて

高見 順著 大 カンリ・ユオ 瀬川 政 道著

に詳述し論評した絶對に他の追隨を許さぬ職度について凡ゆる資料に亙り凡ゆる問題

は権威書。 等その他既存の全 の他既存の全

res.

タイ・カンボヂア・ラオス週歴記

米內山庸夫著

本實彥著

る方は上陸以來の衆漢分だ クをのみ、コーヒーをのんで英気を盛つた、

した、級陸地はすぐ目の前にある、三門の砲口が無量をかきわけ匍匐して頂上に上りトラ陣地を監視 氣味に此方を向きその振霊に敵の歩哨が口笛をふ もんだなあり少いは感心して眺めてゐた、 きながら密収してゐた。何を警戒してゐるのかぶ 原地に現れたいよく一直ついたが、時は文なさ 一を彼らの頭へ巻みこませたのである くと歩き廻つてゐる。ヤンキーつて容気な さる、痛いほどの熟さである、異類な含んだ買い 開海の太陽は眩しいほどもかくくと身間につきざ

あ・他二章(原理庫)会計・出納 丁基基) と、の書・人事・他二章 経濟線 回覧・質 を、の書・人事・他二章 経濟線 回覧・質 を、の書・人事・他二章 経濟線 回覧・質

五章・機田僧長大製師を説すれ、八八十年前別は多年の研究を評述して数性版に出中井瀬里は多年の研究を評述して数性版に出

イヤモンド社編

知一識、将一節的論(歐經過十二經濟體中非良太郎著)

· (图的双型前332)

2・他二七章 (財祭) 殖鹿統制法令解的 お 経 湾の基礎 知識 して 未就朝鮮清河路・他十章 (産業 が 他二〇章 (市民報)

大東亜駅下級技の一部は知然とてゐなければ、大東亜駅下級技の一部は知然とである。本語・中立の各法規数数くの時間。本語・中立の各法規数数

イヤモンド祉編

戰體

爭

法

(國防科學機関リ) 一志

削

原

光雄著

微の飛行機は未明から何機も何機も無へ飛 遙かに決行の申告

映えてゐる『命令を避する』少尉は低いが力强い つきとこを切開くかを開査した、簡古下暗しる草の中を匍匐して緊緊地雷のある低數策略 六応逿りには夕間が迫り唯地は夕陽を浴びて赤っ 大党はあくまで背くそして深い、少尉はむつ 行く、銃砲路は遠壁のやうに置いてゐた、登ん ふが数の歩哨が真上にをりながら氣づかない。

号月5 錢八世價 個一 等級 館 文 博

係別科無「はにそなと母」 毎 円年円 武士道論攷 楠 發月 發月 資下

古賀 城著 間里・八〇 デニ〇 間間して「日本人のもつ血 とな于本書は、新義部質士の 中村孝也著 # 11.<0 FIJO 學 小 格罗一區田碑市京東 七〇一五四京東著編 尾崎士郎著(前典綱 幀潤 (11-110 〒10

旬五 致月 **資**下

健民運動の國家性

に、その學生保健の確立が充分数の百八十度治教回であって、 和、四国みな生衆に説るる季節 の近親、知友の戦略に於ける問 越であった。然るに現時はその しこれを大にして粉へても、そ 動つた。このことたる全く生命

一人の生命の問題であつた。 になされ なくては ならないの たものである。今日國家は、一 の一人ではない。十、百、千の高 は、唯軍なる身際的個艦として を浴みるのそのここの関値 る大東亞共衆國の建設に早や着 以て十に皆り、百をこなし、千 手してある日本に於いて gー 随してゐる日本、また閩域に亘 い。大東亜版を勝ち扱かむと力

職を完全に過去の彼方に放断し所書國家的生命職が個人的生命 た自らもさうおへたものであ りと教へられ、ま

はかるべきは勿論、早級早起、早 事人をなすとか、常に衣服の滞りの新鮮なる空気の中に菜酸の こ」に於いて武道、陸操、 ゆるが如き物質が倒けられなく 民懸つて國の貴重なる人的資源 母たる人はいふまでもなく から考究されて、その質量に燃 てはならない。かつまた、乳幼

も 重要観されてゐる 母子保健 健衛生の道が数ぜらるべきであ 光浴の「敷石等に「常住坐状、 ない。母性は健母たるべく については、<br />
先つその<br />
母性の

以上は 身陽を鼓撃と するの図案性を 明らかに したのであるが、図家に関する閲覧の生命 では不充分である。真の健民は

殊にそれら母子への衆議の配給 たる乳幼兒に對し心からなる室 かくる皇道國家性にあることを

> 集めて真に清新なる。政治を整べ、 る、政治は官界、民間よりの人材を

> > 制の決版化が切費の問題となって

四村折太照(水上)現、宿陽像(水

治療の第一條件は 酸性血液の浮化!

記 公 告 一記 公 告

氏を持つ、政府と職會との一

《郎(『a)新、高田武吉(ac)新、h )新成豐酸益(五一項、光永米前

―安靜と榮養もこれあつてこそ―

· 境、平原永四(中o)玩、中村節

容废(""5新、示城三要""1)現

的の選成に集約せられてゐること

的な決戦の姿に遠展せしめるでも、運動の推進などは國内機制を本格

らうと國民も 政治の 施策に全信

の死刑當然 米人飛行士

伊全帽支持

題全の膨脹を整備した、真光外相進め、重大化した局面に即應する の新任はかくる意味において最も るとはいふまでもない、政府は一 期待されるところである、だも東

るが、廿四日特にファシスト解系

あげて全幅の支持を表明してあ

告の指量についてはイタリー朝野 人道的米人飛行士に続する死心軍 【ローマ廿四日同盟】日本年の非

ついで思想戦の中核たる敦學の彫まつてまつ文政機構の彫刻を行ひ

勝物を一楷すれば、酸化

全國各地樂店にあり

のオトフミ

鎮痛・鎮痙的に作用すると

共に脳血管の病的緊張と痙

動を解き脳血流を圓滑なら

今次改態の重點となつてゐるが、

共に数を知られ 安藤中將の内相就任、後藤文夫氏 つた脳である一阵部、山崎、大阪 の製造會副総裁就任と相俟つて政 といるより

における品道外交の急速な職立と

ある、今回の改造がかくる要職を は國家の絶對的要談となったので の洞窟中に導入せる敗走兵約一千

方の山田地郷に臨河を繋げてあるが同和郭三郎(部長王を繋)がに第四師(師民王月寅)の第一馬は瀬貫西北の郷竹四駅附近でわが被駅に帰河と称の近路に開河とある。

晋冕淡名境前級〇〇廿五日间盟】

兵を捕捉敵隊長ご英

包圍鐵環愈々壓縮

撃滅作戦最後段階へ

不詳)が多数の部下を率あて投降 各部隊に旅長級の少將二名(姓名

|中部||時首六師電下遊園泰家長候||突和ベルフアスト目面の大面の映|| 北アイルランドが展面観から分||乗を行ふ結果となる名を聲替した||神経層域||と西面寺郎峡は廿四日 | ンド地和軍』の武撃隊員は廿四日 | く述く期戦の脳架を限した ルフンド侵略の帝國主義的侵略戦争が設定されて次の近||大西洋後等を作成した米國はアイ

電=反英華命秘密語社『アイルラーヤは米筒の膨速を要求して次の処理・プラスト(北アイルランド)来 振つたが、なかんづくマツカテイ

【ストツクホルム廿四日同盟】ペ

ツカテイヤが姿を現はし各熟職をの闘士ジエームス・スチールとマ

氣勢をあぐ

され、今や数大部隊の投降も必至

審異豫領集前級廿五日同盟】わが北遊部隊の臨唐帝國突入にようて新編第五世の敗廃部隊は臨洪西

臨淇西方に殲滅戦展開

萬を捕捉

附近の山岳地帯に敗走をついけてともに臨洪西北方十キロの田家井 魔長馬法吾は強か十数名の手兵と逃部隊によって魔滅的打撃を受け

撤退を要求

た、実際多々の線、微音祭示談大會を 関係して気深をあけり継いて気深をあけり継いで気深をあけり するやうな料 けた響音線と大量調を演じた、同 アイルランド 気が関 であり金アイルランド 気が しんに伝説する しんに伝説する

如胃少將外英兵三名を捕虜とした

である。そのかみ身態製成これ

度な街を生活する生命の「一」

し廿五日午前八時次の処き日祭共

数次にわたる意味をなし世界全 数がにわたる意味をなし世界全 がの代別を検討したる結果、共 の代別を検討したるべき方法につき ため共同にとるべき方法につき ため共同にとるべき方法につき

便命を遺憾なく強揚し、承韶必節

中をそれと、目的物に向うて進んだ、天俗が数兵市の変が見えない。「今のうちだツ」五人は郷草の

つたけれども緩高と高射砲の音響に消されて欧 た、この郷條網は空職を用した否手の概條網で 『次の類係網を今のうちに破壊せよ』突如少計の

のれることなく完全に切断し終った、歌の歩

を頭から浴びて立ち上づた、何の涙か止めどもな

して軍官民跳國一致前線、銃後の

とは一に御複駁の然らしむるとこ の戦略機制を完成するに至ったこ

が、より以上大きな問題でなけれ一れによって明かに個職と反脳軸の一

る程の餘裕はないと見えて最初

政権場中の福井、市湖、青柳の

北南井方面では村川、薫村、笠原一宮によれば第四十里主力もわが回が投降したのに引つづき、臨ま四一たく滑渕に綴してゐるが、撤選の

運用と戦争指導の貨際度から協納 贈以來一年有半に及ぶ實際政治の に競揮せんとした布峰である、 目的の完逸へ國家の概力を最高度

されたいはば東條的英額であつた

地帯にやス脳い道をつけた、暴りは暗く星のまた の空低く光つてゐる。幕舎からは陽氣なレコー

いた、仰向きに振鳴んでは鐵條数で切断し匍匐し 開け』と少尉はかねて倭冢しておいた地點を指示 した、四人は草の中を匍匐しながら霧條間に近づ

**兩國の結束再確認** 

日泰共同コンミユニケ發表

野に發展せる戦局の急進展に對照 組閣早々にして昭古の大阪を迎へ 世 盛し魔器変元へてあるが、心路を求め 世 郷し魔器のを近れるや一般と無然な

期しひきつゞき各方面に朧烈な職

山岳地帯に敵密集部隊約一萬を包

はれ微全軍の戦兢は全く要失してを撤棄に託して山中を衍衛中を撤

世界外交の確立へ

て原々反駁を繰返してゐを敵部隊

も廿五日朝に至るや全く観話を要

第五類長浜殿英の投降、第二十七〇四部の〇〇廿五日同盟)新編

の整備彫新を はかりもうて 版筆 の窓 筒號に対感し、内國内 窓棚

【東京電話】今回の内閣欧造は外

決戦施政へ戦力推進一般局の現態階ならびに今後の發展

| 配局の建設際ならびに今後の建設||配力増売を中核とする決戦的國内|| すでに述べた通りである、帝國の|| 新比ととも、配局の建設際ならびに今後の建設||配力増売を中核とする決戦的國内|| すでに述べた通りである、帝國の|| 新比ととも

血戦記續き

電が高らかと調くと五つの黒い粉が脱物地へ 現はれた、他の彩蓋と、帯音の近くと、やかて口 現はれた。他の彩蓋と、帯音の近くと、やかて口 少別は途中まで一緒に來た木下上等兵にささやい

成功、中澤挺身隊も

である。物学版や加勝位長は、脚を 詰らせてある るし、 「あゝ中墨もやつたらしいで与中郷医身際国家」

ればかりか、學校や病院を宣言

和格人年参り取出工具を記れた。

野殿病院に爆烈

第四十軍長敗走

が、却つてわが包配路部隊の好餌

抵抗する敵を逐次四南方に影響し一氏物が駆して奈遠にあるかは呉蘇

受けてある、、取時外変なるものゝ

変報が展開されてゐる。一例をな規模で眼に見えない極烈な外に大力を取火の背後では世界的

ドイツ外交陣客も最近前後二回に

戦外交の戦へを見せてゐるが、 旦つて劇期的な大異動が行はれ決 一輪を知るに難くないのである

がソ緊囲であるとか、数支政策の 的な外変障壁の現化を見て重光氏圏も亦今次の内閣改造により圏別 起した西邇寺部隊は重叠たる南部

化として各方面から絶大な欧辺を一せるものである

に天羽情報高級総が登場したこと(任を見たことは、我國の決配統制の内閣改善にようて重光外相(報宜階の鉄選者である天羽氏の記

に或る大芸な力を加へた感を懐か

日夜京漢級沿級〇〇から行動を

で的打撃を興へた、また他の部隊 機能はこれに肉頭突撃をもつて層

好機到來とはかりわが

作戦に自信を失ふ

米太平洋第一主義

は即時和平の斡旋を行ふ用意が氏は不の演説の中で「スペイン」

力の配置を嵌へるためには整然

售が近頃現れはじめてゐる、次に 最近は間石に敵側の中にも、

のことを認論するのは尚早であり間を持つてをり、今から取役

點で重要性を持つものである

でから現れたといる版では既る戦との一つであるとはいへそれが目下戦後問題出

らぬ。お花見などは、勝つてから

微生物製剤中の

ある・

胃腸がありあ され消化吸收

痩せて

どのひと

以上の論旨は分り切つを常殿館で

土道や、鶯の平和主観を撲滅して

病氣は早く治癒の轉歸機額する時は、大概の

かういる理由に基いてゐる、最近 則論を再燃させてゐるのも質は、

的関係において果敢に解決されて 飛躍せしめたものであり、 大戦心勝の氣衛へを内外に一段と あらゆる課題は政府と國民の一般

行くであらう 平澤邑議推薦候補

【平浅智語】母職員推照委員會で

江土の類風も落ちて

は候補者を順重嚴適の結果廿四日 や急に言葉が改まり~お手前はた▲しかし、一度喧嘩口臓にな して盛り場をぞめき歩いたり 下、世話な宮葉を何

下降壓血·痛 鎮 の不快をも鎮靜せしめる。 頭重,眩暈、逆上焦慮感等 輕決せしめ………隨伴する 過高血壓を温和に生理的自 しめて綜合的に頭痛症狀を ●腦溢血·狹心症 然位に低下せしめて… を未然に阻止する!● に對する作用は著明にして 心臓麻痺の危険發作 大阪・東京・京城 日 野 森 商 店

をしずシーへと榮養が 基本となるので参問題が 基本となるので参問題が 基本となるのであつて 

**耗戦であるとひ** 

としく

局は經濟戰であり消極と國との戰爭でも

服用すると 病弱解消 ストを

所究研抜トスープキルマ 治学東州都京

の前がいる。 のがいる。 のがい。 のがいる。 のがいる。 のがいる。 のがい。 のがい。 のがい。 のがいる。 のがいる。 のがいる。 のがいる。 のがい。 のがいる。 のがい。 のがいる。 のがいる。 のがい。 のが、 のがい。 のがい。 のがい。 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のがし。 の

製創

開発的が開発を表現して、 の できる。 の できる

たっという。 一四銭五 一四銭 一四銭 一四代 のるに伴っている。 のるのでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、 ののでは、

特配大郎は沸しく翻酌に参迦。同光大動窓ならびに正主

石とともに宮中に参内、徐良大田とともに鳳凰間に参進分宿舎帝國ホテルを出張宮内省差廻しの自動車にて薩員

りの親語を郷風申上げる、ついで

と響手の画で聞く和やかな殷謝意間行を終へ

が開業部隊は廿四日

の同薬配である

やがて機は臨賃証地の上空へ出き

城と

行發社間新日朝

表者. 久 保 商

成事

御禮申上候

人戚赤 赤

習用

章

月貮拾終日

が、今回國國政形より、天陽壁下に被し帰り同國最高凱賞を主席正籍衛氏に対して凱伽州が大海巡を領跡巡めらせられた主席正常居に対して副の州が大海巡を領跡巡めらせられた「東京歌居」といる。天陽壁下にはさきに中郷民國大阪家府

男士も病床にゐずまひを正 さん如何ですか」と概を紅 く集めて元氣に膨間すれば **一般で各病棟を訪れ ここの** を訪問、魔々しい揃ひの

逃げ惑ふ敵

に對し金本君一同を代表

配着はこの日際級の荒濫に同郷地

チカを順次粉碎

銀つて陸上部隊には別れの挨拶をくて航弱の時間翼を左右に大きく

群が張るわけです

地上部隊の作取を有利に導き、か

の職状を緘貶げてゐた、荒れ部隊の敵が狼狽なす所を知らず大退

には巡場を失つた一脳

合ではハテどうしたものか? 映くとの非磁や接出に百貨店組

と頭を捻つてゐますが、近く府

と正確無比のわが陸鷲部隊の爆撃 上を行く題題所成の〇部隊の意成 同光大勳章を捧呈

猪國府特使けふ参内

外交部々芸権民組氏は特派大便として隊員特命全権公団服用

ヘニナ大日宮中に参内 天島選下に昭見仰付けられ同動窓

同光大勲章を贈追申上げることになり、目下來朝中の同國

物も刺さず出さう

金屬献納に示せ半島の熱意

運動の 一類を置うた 解観局友命 二つの催し――軍人婆婆縛神路捌続後精神を強闘する動能、艦官の

りとなって本年

持つなどもつての他だ、戦ひはさ ないか、今礁るのは恥ぢだ、隠し

時れ鼠國半岛の面目を跨らうでは 物も刺さず陸海軍に散約して天

第ふ絢峨さで緑展げた類人援職に一 の慰安演藝

の宮に一萬九千九百八十七柱の英 と口誦んで見よ、この器にも帰國

| 「展川電話」大東風稽観において「歌図の英感と化」たおが海軍航空、戦闘を観なった。 斯で超数落詞段 | 本社や版中には微末英数を翻載、 二日山口海頭中際は「地水山県が降は、 甘 | 機運動開始の廿三日、 國民營しく 本社や版中には微末英数を翻載、 二日山口海頭中帯以下四帯場と我、 小野等の武脈を動んでその英感になられば、 一日 山口海頭中帯以下四帯場と、 大野等の武脈を観なった。 斯で超数落詞段 第一部が壁と共に従答として敞離一にそれん〜特官を拝し功一級金頭一般開散仰の意を現はす中を、替て

廿九名は京城に初盛の一夜を明かし廿五日午 本此主催第五回全無壓強代妄點地參拜團一行

ひを心から御殿申さねば……を見郷つて職時下にも聡地参

典型的の武將

加來提及

督る

一邑内に土木嗣爲業を誓む山中

野如をして走ってるます あって質に豪快な武将の回影が

と「墨國の興殿、際に賭けて問ぶ

凝然たる心の修練に時を通した【宮属=博文寺一味會の例月茶會】後四時まで築つた人々は上野會主の下に佛法茶道の光像に浸りつく

に心の鍼成に送る茶道の歯

風味を三口で飲み地す殿し う、正年から始まって午

遺器を開堰に飾ってひたすら少勝 芸氏を助へば、氏は少將の面影と

送られ、その赤賊は既に魚留とな で開政米英の敵艦に必中、軍がし

に 就後の 熟誠を見せることになってあるが、その運動の開始されるが、その運動の開始される前に

局をいたく感激させたのである

な……もう向うの難には節の

には最近第七の潔さが想はれ

田の土は並らめるだけ乾らんで今年の均蔵の歴耕を待つて 芽が若いみどりいろに崩えて

れてゐるのだれてゐるのだ 思へは今日も戦ひは戦は

勢に行してその形を拭くひと かれてみてはわからない、動 の農耕 百萬石のお米を立脈に作つてある。今年こそ目標額二千八 人の心は唯一筋合年の増重に

シ、タシ、タシヶ中を聞ます 曜もないのだ【器属=京春沿

心意氣はその犂の燃先に光る 戦地の兵隊さんへの戦闘とし お百姓さんや牛には土曜も日

大です、白衣の男土器を朗鮮の頃 や腕で感問し感味の真心を願りま 御和曽役員に引撃されて、下陽壁 や戦凶を造つて第一蔵に殺りませ三十餘名は五月1 日午即八時から に出られない吾等は就後で飛行機 完勝

道にて撮する

行十一名は、廿五日の「大陸」で半 孫良賊上將、蘇豫遜區及嫡總司令 府陸軍部部長策選上將並に昨春和 生共死の決意を固めて戦る新生中 部上解ほか中國將校内地間察職一 【大陸車中にて中村特派員發】同 陣営に投じた第二方面軍総司令 國軍統帥に重置を負ふ國民政

|| 今朝京城通過|| 國府 祝察 團

に死力を繰りたい 優悟である 上立派に撃人として大東西戦争 上立派に撃人として大東西戦争 上立派に撃人として大東西戦争 日本と中國が仲長くするといれるは孫文先生を崇拝してゐる。

長江里ロトクさん以下三百名留員 殷安運動會を開催、無邪氣な幼兒 数十種の番組を終へ午後四時間常

昭和十八年度電話至意開通申間の 機類並に資材の関係上架般敗は前 で付は來る五月十日より十四日ま の五日間と決定したが、本年度 電話の申請

年度より更に減少の見込なので年 その花をよそに科學への道の探求 汗はむ物を拭ひもやらず

接後に科學院建を観覧して午前の

(新)」と必るは『中村種一』(現) (新)」と必るは『中村種一』(現) の限りにつき訂正す

校縣等些

開発を関います。 

東京東京部京東京部京東京



明鮮 商土株 追の蘭 於子根陰公司候 會









金. 治 治郎

謝

汞 會社

こく四九八・木内生長 一致候 薔薇の花の意匠で有名な 興亞化學工業の力作です・

【下開筆話】 委達も墨國女性の一 勇士を慰問 はこれで二回目の敷間で軍事接種 とと、なった、同青年館女子館で の在田中館人に四月1日から六月館病院で歴安と殿館の1日を過す。 うと 棚和會下観文部では市内三萬

部員の赤誠
の赤誠
の
で
関
文
「下
の
で

末日までは一萬國の献金方を强闘 はるかに突破させるのだと意気

既報の通り本社並に敬盟、朝鮮文

感激の昇殿多拜

**鹽現地報告講** 

本社後接で 廿八日から開催

**正で演題、騰演別日など次のやう** 

【東京電話】姆國神社臨時大祭軍

一日廿五日は第二群(京都、大阪、

奈良、三重)第四群(秋田、

葉上将の車中談

に待つた昇殷参拝の日だ、白髪の

長久所減祭を執行、ひきついき本一時から南山乃木神乱で皇極武道

ぜんそく

の方にヨクキク部

型録贈呈

京城山口版人會では廿五日午前十

山口縣人會總會

る人の言うと

2 と廿五日午前十時半から分割

て懸睒、午後三時敬留した 盟参派長有富大佐の時間識演あつ 年度総密を別き役員改選、京城師

料墨日本の少年少女の敬慕に答る一選り、全様は々基地に陥つたので 科學への道探求

きのふ 先生達が講習會

月や

スティン

私の治界

薬を教へます

困

この日楔の花の人出に賑ふ日曜。 場勞働者罷業

産業別組織で職系の自動車労働組 を開始、同工場は操業際止のやな なきに至った、 曹社のウインザー飛行機工場労働 タリオ州) 死竜=カナダ最大の軍 能築労働者は米國

の生産促進計雑に対する労働者側

午後の組は五時に終つ

☆……『公平な配給』

く地上が窓の舞い姿があつた、包

荒地日蔭地で

ゐると解へられるし、手腕家の 拠といふやうなことが行はれて の確立は近週目をし へと物質配給監制 から『公正な配給』

盛り場の間店街などでは物々変

一反于円

た明子では本質に心細い話です

頭痛・腰痛 生理不順 (錠剤・注射)

新東公司ニシン部東は南大平道ニー

つつうに

沙眼 選張

本 笠 産婦人科 医学 博士 衣 笠 茂 電本5912

鹽田の歴史

極にも増配の良吹が聞助する、生滅をよぶ製器は、ただ策に食料としての壁でなく、近代科學 質は附る照る際夫は走る。 戦ふ半島の際作は大東亞服争の 脚光を大きく浴びて てうら戦略

大東亞戦争舞臺裏の立役者

水水のて止まざる壁壁であり、大東亞配軍に勝ち扱く舞台森の必須産業なのだ、こゝ西鮮の一

た脱敗壁で以去が非常に幼稚な

るため明治四十二年から既作の象 出を防止し一面政府の財滅に流す

の輸入を誘致するやうになり、年

先づ自給自足から 適地と類似に恵まれ將來增産の徐

地を際山もち、縁発力の緩和をは一 ら臨を輸入する船舶は他の用型 歴と地震計畫である ・ も音/ナタフくらねばならない。 音 ・ を音/ナタフくらねばならない。 音 戦である<u>製魔は三</u>千年の歴史と共

古の麓」らあ』と称き出る湯水の虹く思う。田が、一様に海水を貯水池に取入世界最一の傍獣は跳しいのだ。まして『騒ぐ』ず何干、何萬町歩とうさく天日戦

**たり、 空氣や太陽と同説するのは** 

ら 第二蒸發池に送って 軟水機縮 れ、取入れた海水を第一蒸競池か 鹽夫こそ時代の戰士

鹽まみれ汗まみれ

位けば一も二もなく漢子(歴天)

にやるだとおどしつけたほど意夫

の貴城鹽田

**動城盛田は世界一の駿田であ 城に世界一の駿田が造成され** た理由は第一に土に恵まれ

我々は際を一日に一五五でらる極

**撫は味覺の基** 

それは植物性の食用品の中に食器

土は粘土でもなく砂でもない

1、原京市丸之内(東京郷上ビル)、大阪・鮮戸・横渡・名古原・顧岡戸・横渡・名古原・顧岡

鹽の出來るまで「素質問

【上】解水溜から結晶池に解水を扱み上げて!【中】結晶池で蘇々採醐作樂右下】出來上つた食棚に包裝してどしく一口証へ

東京海上火災













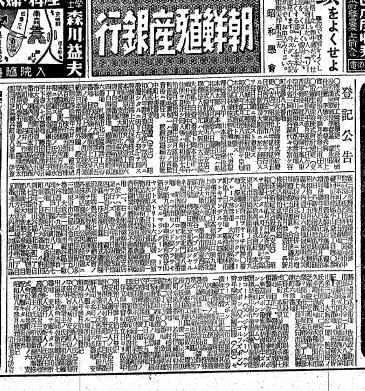




ij,









期、八月中旬から十万までを

から、そのつもりで・・・・

一日間には、まだあなたが襲一味

つむ。それはさうかも知れない。

苦汁と石膏 鴨絲江を堰止める 感マグネシウム、 微工製作、

断たれるまへに、あたしは、

あなたの手で私の生命を

ことにしました。あなたも一般に

これが鴨様江の水を場合止めた を の間に出來る副産物である、

たといっても過ぎではないのだ、

ここそ一種の際にも心が配られ

ランスの田舎に一日一人七瓦を 船は、ゆらゆらと権れながら、波

|開(W)同◆二・三〇(版)面葉配」糖原放差員◆二・三〇(版)面葉

幡隨院















と、英子は壁を沈めて、振るやう

大いなる祭

[126]

三芳 悌吉(権) 實(作)

京日案内

四35

「心臓りをしたといふのね。いっ